

的外



みのる法律事務所
弁護士 千田 實
〒021-0853
岩手県一関市字相去57番地5
TEL : 0191-23-8960
FAX : 0191-23-8950

みのる法律事務所便り

第367号

令和2年11月



いなべん だべんく
田舎弁護士の駄弁句

81



上品な 軟着陸と 褒められた

書いてみようか 初短編に



令和2年10月28日

青空浮世乃捨

『都会の弁護士と田舎の弁護士』を書いている時は楽しくて夢中になりました。「楽しみを以て憂いを忘れ、老いの将に至らんとするを知らざるのみ」という孔子の言葉を実感しました。

調子に乗るのは、私の習癖です。いつの間にか身に付いてしまったよくない癖です。大風呂敷を広げるのも私の習癖です。「これから短編を100話書く」と事務局と家族に宣言しました。

題材は、これまで生きて来て印象深いこととすることにしました。語り尽くせないほど沢山あります。その中で、特にインパクト（衝撃）があって、書き易いものから書くことにします。

第1話として、絶対に入りたくないとの思いで、5年8ヶ月間透析治療導入を延ばす食事療法をした結果、人工透析治療を体験しなければ慢性腎不全症治療の全過程体験記の本を書けないと思い、入らなくともよい人工透析療法を受けることを決断した時の、食事療法を指導して下さいた教授から「上品で見事な軟着陸です。」というメールを頂戴しました。嬉しくて100冊の短編集の第1話に『軟着陸』というタイトルで書くことにしました。

『軟着陸』を皮切りに田舎弁護士の短編集100話を目指し、老いの憂いを忘れる旅に出発します。

気が付いた 白紙にくれた 百点は



きつとやれると 恩師のエール

令和2年10月25日
青空浮世乃捨

高校2、3年時の担任の先生、三浦均先生は、令和2（2020）年6月23日午後7時57分にこの世を去りました。満96歳でした。

先生は受験指導の達人で、私達クラスの中から多くの生徒を国立大学に合格させました。我が母校では、後にも先にもない程の成果です。

先生が担当する理科のテストで、白紙の答案を提出したことがありました。その答案に先生は、5という最高の評価をしてくれました。点数や学校の成績には全く関心が無かったので、当時は「なぜなのか」などと言うことを考えたことはありませんでした。

平成2（1990）年1月1日より事務所を一関市に移してからは、同市に住んでいた先生と、30年もの間喜怒哀楽を共にしてきた気がします。

その中で分かって来たのは、白紙の答案に最高の評価をして下さったのは「お前ならやれる。頑張れ」というエールだったのです。

田舎弁護士の短編集の第1話『軟着陸』は脱稿しました。第2話として『白紙の答案』というタイトルで、先生との印象深い話を書いています。

これまで生きて来て、印象深いことは人間関係にあることを短編を書き始めて、改めて知らされました。『いなべんの短編集』は、私の人生において特に強いインパクトを与えた人の思い出話を中心となりそうです。

ピュアに生きたいものです



「親父はピュアな人でした」と金田諦應^{かねだたいおう}先生は、父である金田諦典^{たいてん}先生のことを感慨深げに語りました。そうです。諦典先生は90歳を超えてもピュアでした。

広辞苑は、「ピュア・Pure」を「純なさま。純粋なさま。純潔」と書いています。90歳を超えても疑い、打算、駆け引きなどがなく、純粋な方でした。それだけではありません。諦典先生は大僧正に相応しく、哲学的にも、宗教的にもピュアでした。

「戦争絶対反対」、「核廃止」、「命と幸福の徹底尊重」を語る時は、少年のように目が輝いていました。更に先生は、『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』という『いなべんの哲学』を「その通りです。それが正解です。」といつも褒めてくれました。

安倍首相や、トランプ大統領にはピュアの欠片^{かけら}が感じられません。菅首相には、東北人らしい純朴^{じゆんぱく}さを失ってほしくないものです。

ですが、学術会議問題に関する対応振りは、とてもピュアとは程遠く、疑い、打算、駆け引きの強い男に見えて来ます。

戦争は「絶対悪」であり、犯罪のデパートです。核兵器は史上最悪の人殺しの道具です。戦争も核兵器も人類には不要です。ピュアな心があれば、戦争放棄、戦力不保持を宣言した憲法9条が正しいことは誰にでも分かります。

それにも関わらず「9条改定」を目指す安倍政権も、それを引き継いだ菅政権も、疑い、打算、駆け引きなどにより、ピュアな気持ちを失っているのです。

「核兵器禁止条約」に署名しない日本政府は、ピュアな気持ちを完全に失っています。広島、長崎に原爆を投下された日本は、先頭に立って「核廃絶」のため動かなければならないのです。50カ国が署名している中で、イの一番に署名すべき日本がしていないのはなぜでしょうか。

年齢を重ねれば疑い、打算、駆け引きは強くなり、上手くなるでしょうが、歳を取って容姿^{きたな}が汚く、醜^{みにく}くなっても、考え方と心は、純で美しく、ピュアでいたいものです。歳を重ねてもピュアな心の持ち主は、美しく、魅力的です。

『軟着陸』

いなべん

田舎弁護士の短編集



『都会の弁護士と田舎の弁護士』は、多くの方から感想を寄せて戴いています。本当にありがとうございます。望外の嬉しさであり、幸せです。御多忙の中で、駄文に目を通して戴いた上、御感想までお寄せ下さった皆様に心底より御礼申し上げます。

調子に乗りました。「100冊の短編集を書いてみよう」などと大風呂敷を広げ、さっそくその第1話を書きました。タイトルは『軟着陸』としました。事務局が手製の冊子にしてくれました。同封しますのでお目を通して戴ければ幸甚です。

「軟着陸」とは、「人工衛星や宇宙船などが衝撃を受けないように速度を落としながら、他の天体に静かに着陸すること」ですが、争い事の処理も、軟着陸させることが大事だと気がきました。

離婚事件でも、相続事件でも争い事の処理はなるべく衝撃を少なく収束させることが大事です。

離婚はやむを得ないとしても、それによって迷惑を受ける人のことを考え、その迷惑を最小限に抑えること、特に子供のいる人は、子供が受ける衝撃を、出来るだけ小さくすることを考えなければなりませんのです。

相続問題なら、親子、兄弟間に遺恨を残さないようにどうしたらよいかを考えなければなりませんのです。親子、兄弟間に冠婚葬祭に呼ばない、行かないなどという関係となるような解決は、とても軟着陸とは言えないのです。

争い事に関わって生きている弁護士も、裁判官も、そして争い事の当事者も「争い事は、軟着陸させなければならない」と言うことを、この短編を書きながら再確認しました。

田舎弁護士の短編集は第2話として、『白紙の答案』を書いています。間もなく脱稿しそうです。この事務所便りを読んで下さっている方に読んでもらいたいと願っています。